

<ポイント版> ぎふ経済レポート（平成30年12月分）

【景況感】

景気は、一部に弱さも見られるが、緩やかな回復が続いている。

【製造業】好調さを維持する一方で、受注の鈍化等の懸念もある

○製造業は、主要産業の鉱工業生産指数では、はん用機械や金属製品等が前月比上昇したものの、化学工業が大幅に低下した。ヒアリングにおいては、これまで好調な業績を維持してきた企業の中にも、米中貿易摩擦の長期化や中国市場の減退に伴い、受注等について、足元での低下や将来的な影響を懸念する企業も見られる。

【地場産業】厳しい状況が継続している

○地場産業は、鉱工業生産指数で食料品、パルプ・紙以外は前月比低下となった。気候の変化や原材料費の高騰、為替の動向等、様々な要因から全体的に厳しい状況が継続している。

【設備投資】投資意欲の減退が懸念される

○設備投資は、企業の合理化・省力化、更新目的の投資が行われる一方で、工作機械受注額が20ヶ月ぶりに前年を下回り、海外向けに陰りが見え始めるなど、米中貿易摩擦の長期化等による影響から、今後は投資意欲の減退が懸念されている。

【個人消費】全体的に緩やかな回復に留まっている

○個人消費は、販売額で引き続きドラッグストアが牽引したものの、ホームセンターや百貨店・スーパー等が前年同月を下回り、全体としては同比微増に留まっている。消費増税に対しては、各小売店で対策への動き出しが窺える。

【観光】観光客数、宿泊客数ともに前年同月を上回った

○観光は、1ヶ月を通して降雨日が少なく、天候に恵まれたため、観光客数、宿泊客数ともに前年同月を上回った。

【資金繰り】良好な資金繰り環境の一方、小規模企業には厳しい状況が継続

○企業の資金繰りは、業績好調な企業にとっては問題なく、借入環境にも変化は見られない。一方で、今後は米中貿易摩擦による資金繰りへの影響も懸念される。

【雇用】人手不足の状態が慢性化している

○雇用面は、有効求人倍率等の関連指標が高止まりする一方で、県内中小企業にとっては、採用活動が困難を極めており、業種を問わず、依然として人手不足が慢性化した状態となっている。